



# いわて・みやぎ・ふくしま 便り

2020年  
7月29日発行

日本生協連  
組合員活動G

No. 2

2020年度「いわて・みやぎ・ふくしま便り」No.2（7月号）をお送りします。コロナ禍のため活動の休止・延期が続いていましたが、活動も再開し始めました。その様子をお伝えします。

7月上旬の豪雨によって、九州を中心に全国で水害が発生しています。被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。



## 2020年度 放射性物質摂取量調査 参加者のつどいを開催！！

コープふくしまでは、7月16日に食事調査（放射性物質摂取量調査）参加者のつどいを開催しました。新型コロナウイルス感染拡大を防止するため日本生協連商品検査センター、福島、郡山、会津エリアをオンラインでつないで開催しました。検査センターから2019年度食事調査の結果やこれまでの経過について報告がありました。その後、各エリアの参加者同士で意見交流を行いました。

参加者からは、「年に一度改めて放射能について考え皆と意見交流が出来、貴重な時間となりました。」「10年の節目を迎え経過とともに気持ちも軽くなり、福島のものを買えるようになりました。」「食事調査を続け、目でわかる安心を貰えた事がとても良かったです」などの感想がありました。

2019年度までに福島県内で累計1,100世帯の調査に取り組んできました。2020年度は今までの半分の年間50世帯の調査を行います。次年度からは、調査を希望する組合員に「調査出来る環境」を整える予定です。



## ～震災・福島をわすれない取り組み～ 「姫花ちゃんハンカチ」購入のお願いを始めました

東日本大震災によって、当時10歳だった鈴木姫花（ひめか）さんは津波に命を奪われました。絵が大好きだった姫花さん。震災の2年前に描いた塩屋埼灯台（福島県いわき市）の絵が、2009年海上保安庁関連団体のコンクールで入賞したほどです。あれから10年。「震災・福島をわすれない」取り組みとして、コープふくしまでは『姫花ちゃんハンカチ』購入ご協力のお願いを6月から始めました。ハンカチの収益はいわき市の震災や交通事故で親を亡くされた子どもたちに全額贈られます。詳しくは日本生協連情報プラザ支援募集情報に掲載しています。ぜひ、ご協力ください。



[https://joho-plaza.jccu.coop/UNNEI\\_49.nsf/xpVwAIIbBSDocStaff.xsp](https://joho-plaza.jccu.coop/UNNEI_49.nsf/xpVwAIIbBSDocStaff.xsp)



## ボランティアが布マスク作りに取り組みました

みやぎ生協では新型コロナウイルス感染拡大防止のため、サロンや被災地訪問など多くのボランティア活動を中止または延期しています。そんな中、少しでも何かできることをと、「こども食堂」や「フードバンク」による物資提供の際に一緒にお届けする布マスクを作るボランティアを、メンバー（組合員）に5月21日から呼びかけました。こ〜び委員や有志のメンバーなど109人の協力があり、約1か月で大人用・こども用合わせて計1,154枚の心のこもった布マスクを作ることができました。できた布マスクは、5か所のこども食堂で食材提供の時に届けられたほか、7月末までにコープフードバンクを通して、児童養護施設や母子支援施設、路上生活者支援団体、更生保護法人など15か所へお届けする予定です。

6月下旬の「せんだいこども食堂」による食材提供の際には、「皆さまの愛情を感じ、ひとりじゃないんだなと勇気をもらいました」「毎日マスクで顔が赤く腫れていたため、柔らかな素材のマスクは本当に助かりました」との声が寄せられました。また、「中学生の子どもが福祉に関心を持ち始めました」「今はサポートされているけれど、落ち着いたらサポートする側になりたい」といった嬉しい声も寄せられていました。

こ〜び委員会では、みやぎ生協職員のための布マスク作りにも取り組み、店舗や共同購入センターへ2,500枚を超える布マスクをお届けしました。

コロナ禍の中でも、少しの「できること」で誰かを支えられることを実感した取り組みとなりました。



みやぎ生協岩沼店で開催された「いぬめまこども食堂+ (ぶらす)」のみなさんによるフードパントリーでマスクをお渡ししました(6月8日)



みやぎ生協文化会館ウィズで開催された「せんだいこども食堂」のみなさんによる食材宅配準備の場でマスクをお渡ししました(6月21日)



コープフードバンクを通して、路上生活者支援団体にお渡ししました(7月8日)



新品の布で作られたマスクを、ひとつずつ梱包してお届けしました



職員向けのマスクお届けの際は、こんな応援うちわと一緒に届けたエリアもありました





## 被災された方々の手作り商品販売を継続しています

東北の食材や加工品を展開するブランド「古今東北」販売会が、仙台駅前の商業施設兼オフィスビル「アエル」1階で定期的を開催されています。その一角で、「とうほくてしごとカタログ FUCCO」に掲載している商品の販売を継続。4月はお休みとなったものの、5月以降は継続して開催でき、8重ガーゼの布マスクや大漁旗柄のコースターなどが多く売れていました。

今後も継続して定期的を開催する予定です。



## こども保養プロジェクト（コヨット！）活動を再開しました！

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、しばらく活動を休止していたコヨット！ですが、6月末から活動を再開しました。今回は7月4日（土）～5日（日）の「ボナリの森 森の音楽会&たこ焼き・外遊び」の様子を紹介します。

コヨット!を支援するこくみん共済 COOP プレゼント「森の音楽会」は、今年で4年目を迎えました。梅雨前線の影響であいにくの雨模様となりましたが、参加した10家族の親子は、森の中を思い浮かべながら美しい音色を聞き入りました。

1日目は、地元で活躍するキーボード奏者&シンガーの藤野恵美さん、世界的な口笛奏者の柴田晶子さんに、ファゴット奏者の牧野裕美さんによる演奏会です。特にファゴットは見るのがはじめてという人ばかりで、生の音聴くのも初めてです。やわらかい木管の音色に魅了されました。子どもたちは動物のフェイスシールドを付けて口笛も楽しんだほか、演奏を聴いたあとは参加者と「パプリカ」などを歌い、楽しいひと時を過ごしました。

森の演奏会の様子は、YouTube でも見る事が出来ますよ！

(<https://www.youtube.com/watch?v=wfQc4yoGswY> もしくはコヨット！で検索)



2日目はホテルの食堂で、家族ごとにたこ焼き作り体験を行いました。コロナ禍でボランティアに来ることができなかった大阪いずみ生協より本場のたこ焼き粉・ソースの提供があり、大阪府生協連からは、粉、天かす、こんにゃく・紅ショウガなどの具、ソースといった材料を提供していただきました。朝ご飯を食べたばかりでしたが、おいしい本場大阪の味をたくさん味わうことができ、大喜びでした。

参加者からは「素敵な演奏を間近で聴くことができ、感激でした。年に数回の楽しみなひと時を定期的に続けていただきありがとうございます。たこ焼きも美味しかったです。子どもといっしょに過ごす時間を温泉でゆっくりとさせていただき、とてもリフレッシュできました。」「コロナで久々にリフレッシュできました。去年は水害で参加できなくてやっと参加できたのでとても楽しい時間を過ごせました。ありがとうございます。」といった感想が寄せられました。



## ふれあいサロン9年の活動に幕

いわて生協では、東日本大震災直後の6月から、被災地の避難所や仮設住宅集会所等で「ふれあいサロン」を開催してきました。ピーク時には毎月79会場で開催してきましたが、復興に伴い仮設住宅が撤去・集約され、陸前高田市の2会場となっていました。当初は3月に「お別れ会」を開催する予定でしたが、コロナウイルスの影響で7月の開催となりました。2会場の最終回の様子をお伝えします。

### ◆7月3日 陸前高田市 サンビレッジ会場

参加者16人と一関地区の組合員ボランティア12人で開催しました。

この9年を振り返って参加者からは、「近くの（集会所がない小規模）仮設団地から歩いて来て参加していた。人が恋しかった。忘れられない思い出です」「津波ですべて流されて、苦しくて苦しくて…。でも、このサロンに参加して勇気づけられました。楽しかった。みなさんの顔を忘れることはできません。とてもさみしいけれど、がんばって明日からも暮らしていきたいです」と涙ながらに感謝の気持ちを伝えてくれました。

組合員ボランティアの佐伯光さんは、「最初のころは、『来月は何をしよう』と悩んだりもしました。けれど仲間の協力で支えられて続けることができました。終了するのはさみしいですが、この9年を振り返ると、人との会話がいかに大切かみなさんに教えられ、また、この場は自分にとっても居場所のひとつになっていたと思います」とお話しされました。





◆7月22日 陸前高田市 滝の里仮設住宅会場

滝の里仮設住宅は、陸前高田市で最後まで残る仮設住宅「集約団地」として現存しています。お別れ会は、参加者12人と盛岡地区のボランティア11人が参加して行われました。今回はコロナ対策のために、市内の別の会場で開催。広い会場でマスクを着用してのため、いつものようにはできませんでしたが、これまでの思いを振り返りました。参加した方からは

「やっと、この2月に高台に移転しました。やっと…です。」

これまでのサロンで作った小物を並べようとしたら、本当にたくさんあって。

いろいろなことを思い出して今日の『お別れ会』に参加しました」

また、別の方は「最初にここの仮設住宅に入って、最後までいることになります。生協のみなさんにたくさん励まされ、ありがたかったです」とおっしゃっていました。

最後に全員で高田音頭を踊って幕を閉じました。



最後はみんなで高田音頭を踊りました

## ～全国のご支援に感謝いたします～

いわて生協の「ふれあいサロン」は、2011年6月から今回まで3,631回開催し、参加者30,615人、関わったボランティアはのべ16,289人でした。ここまで続けてこられたのは、全国の生協のみなさまからのたくさんのご支援があったからこそです。岩手県は北海道に次いで広い県。ボランティアもバスに乗って片道120キロ、2時間以上かかります。そのバス代やサロン実施時のお茶代などに募金を活用させていただきました。また、お菓子の支援もありがとうございました。

仮設住宅での活動はこれで終了となりますが、いわて生協では、災害公営住宅での食の支援活動「生協料理サロン」や被災地での自主的な集まりへの補助、事業を通じての移動店舗「にこちゃん号」や復興支援お買物バスの運行など、これからも支援を継続していきます。

発行

日本生協連 社会・地域活動推進部 組合員活動グループ  
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

小池